



ゼロカーボンタウン先進地へ

創る、巡る、贈る おおくま。

大熊町は、地域の再生可能エネルギーを活用した持続可能なまちづくりに取り組むことを決意し、2040年までのゼロカーボンへの挑戦を宣言しました。

将来、大熊町が「原発事故があった町」ではなく「ゼロカーボンタウンの先進地」として、語れるまちづくりを目指します。

「創る」地域資源を活用したエネルギー創出 「巡る」地域内循環システム構築 「贈る」持続可能な大熊を将来世代へ

既存の枠組みにとらわれず、イノベーションの創発を促し、一步一步課題解決に取組んでいく。今、大熊町の挑戦がはじまっています。

ゼロカーボンタウン Action

2020年ゼロカーボン宣言、2021年ゼロカーボンビジョンを発表。大熊町は、ゼロカーボンタウンの先進地としての大きな一歩を歩み始めています。



Action 1



大熊
ゼロカーボン宣言

2020年2月9日小泉環境大臣立ち会いのもと「ゼロカーボン宣言」を行いました。大熊町は、原発事故を経験した町だからこそ、原発や化石エネルギーに頼らず、地域の再生可能エネルギーを活用した持続可能なまちづくりを目指します。

Action 2



大熊町
ゼロカーボンビジョン策定

「大熊ゼロカーボン宣言」を具体化していくため、2021年2月「ゼロカーボンビジョン」を策定。ゼロカーボンの実現を通じて、町の復興を力強く進めていく指針や町の政策の軸として育てるという思いを込めて策定しました。

Action 3



大熊町・株式会社エイブル
連携協定締結

再生可能エネルギーの地産地消を進めるために、大熊町における「地域新電力」の設立に向けて準備を進めています。この度地域新電力の事業パートナー公募の結果、株式会社エイブルとの間で、地域新電力事業を通じたゼロカーボン推進に係る連携協定を締結しました。

ゼロカーボンタウンに向けて

大熊町では、豊かな自然を活かし、太陽光/風力/小水力等の再生可能エネルギーを大量に導入。さらに地域新電力やスマートコミュニティ事業によってエネルギーの地産地消システムを確立させ自然と共生しながら、豊かで、潤いのあるゼロカーボンタウンを目指していきます。



大熊町の将来像 (イメージ)

※導入施設や場所は決まったものではありません。

